

非核平和の集い

～語り継ごう 平和の未来へ～

きずな

第3号

2012年10月

＜発行＞
泉南市人権啓発推進協議会



進行
清水真治さん



発表者 田中豊子さん

8月19日（日）、文化ホールにおいて非核平和の集いを開催しました。第一部では、終戦当時7歳だった泉南市在住の田中豊子さんに、学校や家庭での生活についてお話ししていただきました。67年前の子どもの頃の記憶ですが、未だに鮮明に残る強烈な出来事だったことがお話からわかりました。最後に進行役の清水真治さんから、「時の流れとともに戦争の恐ろしさを知る人は少な

くなるが、平和の尊さについて語り継いでいきたい。」とまとめていただきました。

第二部については、新藤兼人監督の遺作となった映画「一枚のハガキ」を上映しました。

「一枚のハガキ」をみて

樽井校区 西出恵子

戦場で家族のことを思い、残された家族は、夫・息子の無事を願う思いも届かず、戦場で狂わされた人生！

次から次へと家族を亡くし、気が狂いそうな悲しみを越え、生き抜いていく女性たちのたくましさを感じました。

ラストシーンの黄金色の麦畑も印象的でした。（みんなのぶんまで幸せに……と。）

戦争を知らない、どっぶり平和の中で生活をしている私ですが、当時の悲しみ苦しみを感じる事ができたいい映画だったと思います。

ありがとうございました。

4月

人権協総会 & 講演会

人権と防災

「尊い命を助けたのは地域のみなさんでした。」常日頃から隣近所との付き合いや、地域リーダーのもとチームを組むことが大切であるというお話でした。



泉南市男女平等参画推進条例

校区総会の終了後、平成24年4月1日より施行された条例について校区住民のみなさんと一緒に考えました。

5月

校区総会 & 研修

6月

市民の集い 映画&講演会

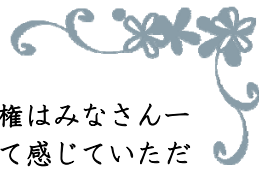
映画「アンダンテ」

ひきこもり経験のある講師より、「あなたは絶対に独りぼっちじゃない！」その優しい言葉に、心が温かくなりました。



座談会

それぞれの思いを語っていただきました



泉南市人権啓発推進協議会では、人権はみなさん一人ひとりの中にある、身近なものとして感じていただくために、さまざまな活動を行っています。

今回の「きずな新聞」では、6月に開催しました人権入門講座「わたしを生きる居場所づくり講座」を受講されたみなさんにお集まりいただき、普段感じていることとお話ししていただきました。

後列左から⇒東佑吉さん・小栗通生さん
南弘和さん

前列左から⇒内藤京子さん・西川郁代さん
魚本理恵さん・魚本旭くん
藪脇弘子さん



司会(事務局) 今回初めて、普段何気なく考えていることを、ちよっとおしゃべりしてみようということでのような場をもうけることになりました。

司会 人権の講座に参加したきっかけは。

小栗 講座にちよくちよく参加するようになったのは、新家校区人権協の委員長になったときです。人権のことを何も知らなかったら話にならないーと思って参加するようになりました。

西川 結婚して泉南市にきたので、まわりに知っている人も少なかったんです。子どもができてから子育てサークルにはたくさん参加していました。子どもが大きくなって幼稚園に行くようになり、一人で参加できる講座に行ってみようということ。3年前に初めて人権の講座に参加しました。

藪脇 退職後、人権のカウンセリング講座に参加しました。それからできるだけ参加するようにしています。

内藤 7〜8年ぐらい前かな。人権ふれあいセンター主催の人権歴史講座に初めて参加しました。それからいろいろ人権の講座に参加しています。

南 最初、雄信校区の委員長になってくれへんか、と梅田会長から誘われました。会社も退職したし、やらしてもらおうとひきうけたんですが、それまでみなさんのように人権の講座に積極的に参加していたわけはありません。人権協の副会長になってから、何も知らなかったら。と思、時々講座にも参加するようにになりました。

魚本 私も男里に住んでいます。今回、人権の講座に初めて参加しました。昔から講座とかには興味がありました。結婚してから子どもが産まれ、忙しくて参加したことがありませんでした。その後、少し気持ちが疲れてしまったときがあつて、回復しつつあるときに、小学1年の娘が学校から人権講座のチラシを持って帰ってきて、自分でも心理学の勉強をしているので、つながるかなと思、参加しました。

南 男里だったら近所ですね。毎年秋に雄信小学校でコンサートなどの「校区の集い」をします。今年はぜひ見に来てください。

東 働いていたころは、部落問題の石川青年についてかわりました。その後セクハラやパワハラ、個人情報問題について研修を受けました。

退職後は民生委員として活動する中で、人権についても勉強しとかなあかんーと思、なるべく講座に参加するようにしています。





司会 みなさん、いろいろなきっかけで講座に参加されているんですね。参加してみようでしたか。



荻脇弘子さん

講座に参加すると、いい出会いがありうれしい

荻脇 講座に参加するといい出会いがあります。今までに出会ったことのない方と会えるし、また別な場所であうと「いや、元気？」と声を掛け合う。人権の講座はいい雰囲気のところですよ。参加すると自分がかうれしいし、視野が広がるので参加しています。

内藤 知らないことを知ることで見方が変わります。講座を受けることで自分が変わるきっかけになるし、講座でいろいろな話を聞いたり、参加している人の経験を聞くことで、自分改革ができるようになります。

小栗 これまでにいろいろな講座に参加したけど、資料は全部ファイルしています。「前にも聞いたな」と思って思ったら、見直すようにしています。朝鮮の歴史の話は興味深かったです。また聴きたいですね。

西川 初めて参加した時は楽しかったですね。しばらく忙しく参加できなかつたけど、久しぶりに今回の講座に参加しました。全く知らない人とでも話ができただと思えます。同世代の人と話ができるのはわかるけど、今まで接点のない人と話ができるその時間が楽しかったですね。

人権のことは一生勉強せなあかん

東 人権講座を受けるようになって思いますが、これまで自分は差別をしていると思つてなかつたが、本当は相手に嫌な気持ちをさせてしまつていたかもわかれへんなーと思います。それを気づかせてくれたのはこの講座でした。みんな、差別をしてないとは言えない。気づいてないだけやと思います。人権のことは一生勉強せなあかんやと思つてますね。



東佑吉さん

内藤 みなさんおっしゃつてるように、初めて会う方でも、テーマにそつて話をするので、おしゃべりがはずみます。話してみると一つのこと、こんな

風に考えたり、あんな風に考えたりするんやということがわかります。自分はこの方がいいと思つていたけど、これだけじゃないと気づかされます。だから家族の中でも、自分と夫や子どもと価値観が違つても認められる。そういう効果がありました。

司会 内藤さんのように、人権の講座を受けて、家族や社会とのかかわりの中で、なにか感じることはありますか。

魚本 だれしも自分は偏見してないと思つているし、思いたい。そう思う人は真面目な人だと思います。でも、そんな人は自分の無関心に気づいていないこともあると思うんですね。

最近感じるののは便利になりすぎていて、過程を分かんずに感覚を大事にしていない人が多いような気がします。無関心の方が楽。感覚を磨くと苦しいことも多いけど、磨いていないと、自分自身や他人の感情に気づかないような気がします。子どもには感覚

を大事にしてほしいと思つています。

荻脇 感覚を磨くと苦しいつつ言ったけど、子どもはそういう家庭で育つと、いろいろな感覚をもつことができていいと思うな

信頼できる家族が一番信頼できる人をたくさんつくつてほしい

魚本 人は社会とつながつていかなあかん。その中で信頼できる家族が一番大事だと思います。自分の胸の内を明かせるのは信頼できる家族だと思ひますが、将来的に自立した時に、いつまでも親だけでなく信頼できる人をたくさんつくつてほしい。信頼できる人がたくさんいる社会になつてほしいと思ひます。



魚本理恵さん・旭くん

東 私は小学校の登校時に「おはよう。」と声をかけています。だんだん顔を覚えてもらうようになる、「アニキ！って呼んでやー。」と喋って子どもたちとのつながりを大切にしています。子どもたちには「ひとさまに迷惑をかけるな。」としぼるのではなく、「困ったことがあったら、遠慮せんと周りのおとなに言いやあ〜。」と頼れる地域・ネットワークづくりをしていきたいな〜。



内藤京子さん

“生きるか死ぬか”ではなく”いかに生きるか”が大事

内藤 ネットワークづくりで思いだしましたが、筋無力症の方の話で、「自分は”生きるか死ぬか”で悩んでいたけど、そうじゃなく、”いかに生きるか”が大事だ。自分も生きてい

れば、もしかしたら誰かの心を癒せるかも…。”という言葉を、当事者同士のネットワークから気づいたという話を聴いて、すごく感動したことがあります。私たちも”いかに生きるか”が大事だと思います。

司会 今回の講座テーマ「心地いい居場所」は、みなさんにとってどういうところでしょうか。

西川 実家に帰った時は居心地よくて幸せやわー。私は親が好きなんです。実家においても、家と同じように洗濯物を取り入れたり、家事を手伝うんやけどそれが心地いいんです。何も言わなくても、私のことを心配してくれるのがうれしいですね。

共感しあえることが心地いい

南 山登りが趣味なんです。趣味が一緒と聞いたらすごくうれいす。共感できることが心地いいし、山登りで出会った人といさつするよさまでよみがえります。



南弘和さん

司会 今日のこの座談会が、普段何気なく考えている人権についておしゃべりできた、「心地いい居場所」だったように思います。最後に、今の自分自身にできること、これからやっていこうと思うことは何ですか。

魚本 今、心理学の勉強をしていて、心理カウンセラーや相談員になって社会に貢献したいと思っています。これまで私も偏見をもっていたこともあったけど、そういうことに気づくことも大事です。できないこともあるけど、自分ができることをするということが生きてるっていいことだし、そんな気づきがあったことを広めていきたいです。

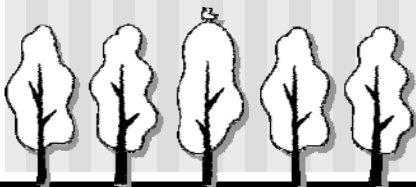
じんけん写真に応募して…

『絆』がテーマの写真展に、私の主人と次女が写る一枚の写真を出展しました。普段、特に長女を可愛がり次女とはあまり触れ合いがない主人ですが、その写真には、“満面の笑みで父親を見つめながらブランコに乗る次女”を同じく“満面の笑みで見つめ返す父親”が写っていました。普段はあまり触れ合いがない2人だけど、しっかり『つながり』があるんだなあと感じました。また、その出展の後に記念品としてチューリップの球根を頂きました。子ども達と一緒に球根を植え、春になって芽が出て花が咲いた時の子ども達の喜ぶ笑顔は私にとってもかなりの喜びでした。『絆』の写真展は、終わってからもチューリップの球根という『絆リレー』みたいな形で我が家にあたたかい気持ちを運んでくれたような気がします。

小坂 めぐみ(昨年度応募者)



今年は「笑顔・ふれあい・安心」をテーマに写真を募集します。詳細については9月号広報をご覧ください。



一人ひとりの個性を大事に

西川 娘は、集団生活で気をつかうことが多いんです。集団の中でも一人ひとりの個性を大事にして大きくなってほしいし、そんな社会になってほしいと思います。



西川郁代さん

東 今日みたいな場合は、ほんまに勉強させてもろてるなーと思います。「教育・学び」って何かと考えると、努力することが大事と教えることだと思えます。さつきも「人権は一生勉強せなあかん」と言いましたが、一過性のものではなく、ずっと勉強し続けることが大事だと思います。多様性を大切に、自分が出せることは出して、みんなと話をして、勉強したいと思いません。諸先輩方が培ってこられた人権活動に敬

意を表し、より発展させるために学習し、貢献していきたいです。

**叱ってほめる
今までの生き方を
続けたい**

小栗 昔、野球を教えているときから、ちよつと怖いおっちゃんやったんです。今でも近所の子どもたちに時々話しかけたりします。したらいかんことは叱り、いいことしたらほめる。「あそこのおっちゃん怖いなー。」って思われてもいい、今までの自分の生き方を、続けていきたいです。



小栗通生さん

藪脇 笑い話なんですけど、この前誰も家に来てくれないし、なーんかふと、「死にたい・死にたい」って紙に書いて貼ったことがあったんです。私はもう貼っ



藪脇弘子さん

たことすら忘れてたんです。娘がそれを見て、「お母さん、心配ごとでもあるん？」「ないよ」「なーんや、心配せんでも、絶対死ぬんやから。」そんな会話で二人で笑いました。気を引きかっつた、ちよつとかかわってほしかつたかなーと思います。私も誰かとかかわり、堂々と生きていきたいですね。

南 学生時代や、働いているとき、また地域でのかかわりの中でいろいろな人と付き合ってきました。この歳になつても、自分がどう判断するか迷いがあるときもありますが、世代や考え方が違っていてもいろいろな人との付き合い、つながりを大切にしていきたいです。誰か偉い先生を呼んできて話を聴くだ

けでなく、人と人の中に入り込んで幅広く学び、生涯現役でいたいと思います。

内藤 「学ぶことは生きる」とこの言葉が好きなんです。学び続ける人間になりたいと思っています。ただ頭で考えているだけでなく、自分ができることを実践することが大事だと思います。

「水をやらないと作物は育たないのと同じで、自分の家庭の中で今誰が水をほしているのか？心が飢えているか？を見渡し、その人に水をあげる人になつてほしい。」という、新藤兼人映画監督の言葉に共感しました。家族が潤えば、その家族が友達とかまた他の誰かを潤すことができると思つています。今、自分の幸せに気が付かない人も多いですが、自分の幸せにも気付き、人も幸せにしてあげられるよう、小さなことでもいいから始めたいと思います。今回のおしゃべりの会では、これまでにいろいろな講座で学んだことをふりかえり、また自分の生き方を見直す時間が持てた、すごくいい時間でした。

司会 今回のような「おしゃべりの会」(座談会)は初めての取組みでした。最初、「人が集まってくれるのかな。」「話しが続かず、盛り上がりなかつたらどうしよう。」という不安がありました。みなさんのこの写真の笑顔！すごく楽しい雰囲気。普段の生活の中で感じていること、ちよつとした悩み、この前見たテレビや本の話…。この場でいろんな話題がでました。いろいろな考えがあつても、お互いを尊重しあい、そこから生まれた「気づき」は、大きな学びになりました。そんな「おしゃべりの会」をこれからも続けていきたいと思つています。関心のある方は一度、人権推進課までお問い合わせください。





5月30日(水)、日ごろ人権啓発活動に積極的に参加してくださっている方々と親睦・研修を兼ねて、大阪市浪速区へ行ってきました。

参加された太田さんから感想をいただきました。

大阪人権博物館にて

太田 宏

「リバイティおおさか」の愛称でも親しまれてきたこの博物館。いま存続の危機に直面しているとのこと。年間収入の大半を占める大阪府・大阪市の補助金が、今年度で打ち切られようとしているからとか。

人権協バスツアー「〜見て・聞いて・食べて歩いて人権文化を感じよう〜」に参加して、まず知らされたことだ。

館内の見学では井村絃さんの案内で差別の諸現象と人権について学び、人権・

太鼓ロードフィールドワー

クでは、太田恭治さんの案内で太鼓の産地として300年の歴史をもち、全国有数の皮革の集散地だった浪速のまち「太鼓ロード」を歩き、昼食は近所のお好み焼き屋でご当地でしか食べられない?「油かす入りお好み焼き」を食す。美味!

それにしても、この街の静寂?さはどういうことか。

私は約30年前に5年ばかりこの近くに勤めていた。当時は市営住宅もいまほど整備されていなかったし、街づくりも「近代化」という点では遅れていたかもしれない。だが、いまよりはるかに賑わいと活気があったと思う。

当時はJ R 芦原橋駅横の解放会館、近くの青少年会館など公立の人権関係施設が、講演会やイベント等の街づくりの集いに頻繁に活用されており、私も年配対

象の識字教室サポーターとして勤務時間外に何度も参加したものだ。

それがいまは軒並み閉鎖や用途変更されているようだ。時のトップや運動体対応によってこれほどの違いがあるものだろうか?そのせいか、駅高架下の飲食店などがほとんどなくなっていた。

大いに疑問を覚えたものだ。

ただ一つ心を和ませてくれたのは、仕事帰りに何度も通った芦原橋駅となりの立ち飲み屋が1軒健在だったことだ。



太鼓職人さんが、大きな太鼓の皮として適しているか確認しているところを見学させていただきました。

編集後記

今回から編集委員が3名増え、会議は今までも増してたくさんの方の意見が飛び交い、毎回タイムオーバーの状態です。嬉しい悲鳴を上げています。

今回の特別企画の座談会はいかがでしたか。出席者の方々に忌憚のないご意見をいただき、初めての企画には大成功です。と編集委員一同自負しております。

今後も読者のみなさまの中で「これぞ!!」と思われる企画がありましたら、『きずな』の編集部までお知らせいただければ幸いです。そして、これからも編集委員一同、きずな新聞の向上に頑張ることをお約束いたします。

(企画実行委員会 編集委員)

これからのおもな行事

*人権週間「市民の集い」
12/2(日)

*人権シネマフォーラム
1/27(日)

*人権協総会
4/20(土) …予定

*各校区人権協総会
5月

*憲法週間&男女共同参画週間「市民の集い」
5/26(日)

問合せ：人権推進課
TEL072-480-2855